

政策	21 暮らしやすい都市の創出						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	定住の場や就業の場としての利便性が確保された計画的な土地利用や道路網整備の推進を図る。 本市を特徴づける資源を活かした魅力的な景観や街並みの形成を図る。 誰もが快適に暮らし続けることのできる良質な住環境を確保する。 日常生活の足となる身近な公共交通サービスの充実を図る。						
成果指標	道路の整備・保全に対する市民満足度...5年間で60.0%（現状値50.2%） 美しい景観形成に対する市民満足度...5年間で65.0%（現状値58.0%） 公共交通の充実に対する市民満足度...5年間で60.0%（現状値42.6%） 専用住宅の年間新築戸数...5年間で840戸（現状値804戸）（指標単位：戸）						
目標達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [%]	予定					60.00
		実績				45.80	
	成果指標2 [%]	予定					65.00
		実績				54.90	
	成果指標3 [%]	予定					60.00
		実績				45.70	
	成果指標4 []	予定	510.00	813.00	822.00	831.00	840.00
実績		778.00	739.00	772.00	706.00	670.00	
トータルコスト (千円)	予定	1,330,415	1,438,873	1,607,376	1,894,306	2,803,603	
	実績	1,514,414	1,329,832	1,838,222	1,850,306	2,040,008	
内部評価	貢献度	基本施策「暮らしやすい都市の創出」を実現するための取組として、各単位施策は重要な要素であり、基本方針「心地よく暮らせるまちづくり」への貢献度は高い。					
	達成状況	成果指標「専用住宅の年間新築戸数」については未達成となったが、各単位施策は概ね目標通りのペースで進捗している。					
	課題	施策実施のための財源確保を図るとともに、施策内容の見直しや積極的な情報提供を行う必要がある。					
	取組方針	市民の施策の理解促進や利便性向上を図るため、積極的な施策の周知を行うとともに、必要に応じて施策の見直しを行う。					
外部評価	<p>本基本施策のうち、道路の整備・保全、景観形成、公共交通については、いずれも市民満足度が成果指標に設定されているが、2016年（平成28年）に実施した住民アンケート調査では、景観形成は50%を上回ったものの、道路及び公共は50%を下回っており、これらを高めて行く必要がある。</p> <p>特に、公共交通においては、ふれあいバス・蔵タクともにPRの強化やサービス向上により、乗車率の増加や経費削減等の業務改善の余地がある。</p> <p>道路の整備・保全においては、単位施策や各事業の達成度は高く、進捗状況は概ね良好と思われる、今後も計画的に事業を進め、都市基盤の根幹となる道路網整備を図りたい。</p> <p>また、本市の移住定住促進事業は全国的にも評価が高く、進捗状況も順調であると思料され、引き続き、移住定住の促進を図りたい。</p>						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	2102	景観形成の充実				68,778	100
	2103	定住環境の整備推進				957,305	100
	2101	都市基盤の充実				619,302	90
	2104	公共交通体系の充実				394,623	90

平成29年度 基本 施策評価表 補表

施策	21 暮らしやすい都市の創出		
区分	妥当性	妥当	暮らしやすい都市の創出のため、各単位施策下の事務事業の推進は不可欠であり、妥当である。
	コスト削減の余地	有	各事業の整備手法を見直すことにより、若干の余地があるものと思われる。
	受益者負担	余地あり	ふれあいバスの料金設定方法については検討余地があるが、その他の事業については適正な負担割合である。
	上位貢献度	有効	暮らしやすい都市の創出のため、各単位施策下の事務事業を推進することにより、市民が快適に暮らし続けることができる。
	類似事業の有無	無	本施策の成果を達成するには、他の事務事業では代替できない。
	成果向上の余地	有	整備手法の見直しや施策の積極的な周知、市民に対する利便性の向上等を図ることにより成果向上につながる。
内部評価 【H29年度分】	貢献度	基本施策「暮らしやすい都市の創出」を実現するための取組として、各単位施策は重要な要素であり、基本方針「心地よく暮らせるまちづくり」への貢献度は高い。	
	達成状況	成果指標「専用住宅の年間新築戸数」については未達成となったが、各単位施策は概ね目標通りのペースで進捗している。	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の見直しと関係権利者の理解と協力を得ることが必要。 ・施策実施のための財源確保が必要。 ・施策を市民に理解してもらうための積極的なPRが必要。 ・公共交通の利便性向上が必要。 	
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・木造住宅耐震化の普及啓発を図るとともに、景観計画に基づく届出等の徹底及び定住促進支援事業の積極的な周知を行う。 ・市民ニーズを踏まえたふれあいバスの運行ルートの検討等を行う。 	
内部評価 【前期5年分】	貢献度	基本施策「暮らしやすい都市の創出」を実現するための取組として、各単位施策は重要な要素であり、基本方針「心地よく暮らせるまちづくり」への貢献度は高い。	
	達成状況	各単位施策は概ね目標通りに進捗しているものの、基本施策の成果指標である「専用住宅の年間新築戸数」は未達成であり、また、「道路の整備・保全」、「美しい景観形成」、「公共交通の充実」の市民満足度に結びつかず、目標を下回る結果となった。	
	課題	施策の利便性向上及び周知、施策を実施するための財源確保が必要。	
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズを把握して施策内容の見直しを行うとともに、積極的に施策のPRを実施し、市民の利便性向上や利用促進を図る。 ・円滑な施策推進のため、市民等との協力体制を構築する。 ・施策実現のための財源確保に取り組む。 	